血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70078	2007/07/27	70346	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2007年5月4日	イスラエルで血液事業を行っているMagen David Adomは、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に関する供血延期基準を変更し、1980年以降にフランス居住歴がある人の供血を可能とした。1980年から10年間のうちにイギリス、アイルランド、ポルトガルに居住歴のある人は、引き続き供血禁止となる。また、輸血を受けた人、B型肝炎やC型肝炎患者と一緒に住んでいた人、入れ墨を入れた人、内視鏡検査を受けた人、未検査の動物に噛まれた人の供血延期期間を短縮した。	7
70078	2007/07/27	70346	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2007; 35: 79-97	ドイツにおいて、vCJDが血液供給へ及ぼす影響について実際の集団データを基にモデル計算を行ったところ、輸血を介した伝播がvCJDを永続化するような可能性はなかった。更に、受血経験者を供血から排除しても輸血の安全性向上にはほとんど寄与しないが、血液供給には多大な影響を及ぼすと考えられた。そのためドイツにおいては受血経験者の除外は推薦されなかった。	8
70069	2007/07/18	70317	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂食したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。	
70070	2007/07/24	70324	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	赤血球製剤の輸血によるヒトでのvCJD感染症例が報告されている。げっ歯類のTSEに関する実験で、赤血球製剤の感染性は赤血球自体に関係があるのではなく、残存している白血球や血漿のような製剤中の他の成分に関係することが示された。vCJD因子がヒト赤血球と結合できないことが示されたら、vCJDが発生している国の血液サービスは輸血前に洗浄や濾過により感染性のある液相を取り除くことが賢明かもしれない。	9
70059	2007/06/15	70257	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 89-96	vCJD二次感染防止のため、輸血歴のある人の供血を禁止している国もある。Dynamic age-structured modelを用いて、この措置の効果を検討した。これは、供血者の行動、CJDの症例対照試験、受血者の年齢分布および受血者の死亡の疫学的データに基づくモデルとしては初めてのものである。食品によりヒトに導入されたvCJDの様な感染は、輸血のみにより拡大する可能性はないこと、また、輸血歴のある人を供血から除外することにより感染を免れるのは1%未満の症例にすぎないことが予測された。	10
70064	2007/06/22	70281	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤(pdFVIII)の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC(TSE Advisory Committee)は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。	
70065	2007/06/29	70299	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年11月27日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤(pdFVIII)の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。製造工程での原因物質除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動する。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70070	2007/07/24	70324	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年3月15日	FDA、CDCおよびNIHを含む米国Public Health Serviceは、米国で承認された血漿由来第VIII因子製品を投与された血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者のvCJDリスクは極めて小さいとの見解を示した。血漿由来第IX因子を含む他の血漿由来製品によるvCJDリスクは同程度もしくは更に小さいと思われる。	
70070	2007/07/24	70324	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年3月30日	近年、英国で得られた血漿から作られた血漿第XI因子(pdFXI)を投与された患者でのvCJDリスクが関心を集めている。1989年から2000年の間に米国では約50人に英国血漿由来のpdFXIが投与された。世界中でこれまで血友病や他の凝血疾患の患者においてvCJDは全く報告されていない。これらの患者は長期間にわたり血漿由来製剤を大量に投与されていることから、pdFXIを投与された患者でのvCJDリスクは小さいと考えられる。	11
70069	2007/07/18	70317	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA Press Statement 2007年1月18日	輸血と関係した新たなvCJD疾患(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けてから約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定された1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。	
70059	2007/06/15	70257	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存中である。	
70069	2007/07/18	70317	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J R Soc Interface doi:10.1098/rsif.2007.0216 Published online	血液由来のvCJDの流行の大きさを探るために感度分析を行い、公衆衛生的介入の有効性について調査した。数学的モデルを開発し、悲観的モデリング仮定で評価すると、自己持続的流行が起こるならば2080年までに900例以内、楽観的仮定では250例以内となった。大規模な又は自己持続性流行に至るシナリオの可能性はあるが実現性は低く、輸血を受けたヒトからのドネーション禁止措置等の公衆衛生的介入が有効である。	
70059	2007/06/15	70257	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的徴候を発現し、National Prion Clinicへ照会され、vCJDと診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫フロッティング法および免疫組織化学検査により異常プリオンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオンの1次感染患者と同様、医原的曝露を被った他の高リスク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にする。	
70069	2007/07/18	70317	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	LANCET 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aとについて血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイピーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通過して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70059	2007/06/15	70257	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質Alicon Prio Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁中にPrPScの前駆体であるPrPCを同定することができた。PrPCの絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中でμg/lレンジ、ヒト乳汁中ではng/lレンジであった。PrPCは、均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高温処理を施しても内因性PrPC濃度はわずかに減少しただけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrPScの感染源となる可能性を示唆する。	
70064	2007/06/22	70281	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。H型と呼ばれる高分子量のフランスのウシPrPres分離株を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、死亡し、これらの株が感染性プリオンの新規株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイピー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。	
70059	2007/06/15	70257	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイピー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルボールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因ビリオンである可能性がある。	
70059	2007/06/15	70257	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070108.0081	英国保健省は2007年1月8日、CJD患者数に関する最新情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)46名で、死亡患者総数は158名である。生存中のvCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例総数は165名である。2006年12月4日の月例統計以来、死亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。	
70061	2007/06/15	70259	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病(CWD)非感染シカをCWD陽性のシカの唾液、血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播しうる感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言える。プリオン感染では体液との接触に関する注意が払われるべきである。	
70070	2007/07/24	70324	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 320-328	血漿製品によるプリオン感染症例は今まで見られていない。国によって対策は異なるが、vCJDやBSEのある国での疫学的調査、特定の期間にBSE発生国へ旅行したり、住んでいた人や輸血や組織移植を受けた人に対する供血延期措置、血漿中の白血球除去、複雑な産業的分画過程中でのプリオンの除去などが行われている。エタノール分画、デプスフィルトレーションおよびクロマトグラフィーは数logのプリオンを除去できる。またナノフィルトレーションもプリオン除去に有用な方法である。	12
70061	2007/06/15	70259	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2006; 91(Suppl 3): 70	PRDT(Pathogen Removal and Diagnostics Technologies)は、全血、RBCまたは血漿存在下で,脳由来プリオンタンパク質およびTSE感染物と強く結合する高親和性リガンドを得るため、何百万もの化合物をスクリーニングした。その結果、PRDTのリード樹脂は赤血球存在下でも高濃度のTSE感染物を吸着し、低濃度の内因性TSE感染物を除去した。この樹脂を使用したMacoPharma P-Capt(TM)フィルターを用いることにより、輸血によるvCJD伝播リスクを軽減できる。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70069	2007/07/18	70317	アルツハイマー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	アルツハイマー病患者、またはβ-アミロイド前駆体タンパク質(APP)発現トランスジェニックマウスから得たアミロイド-β(Aβ)含有脳抽出物の希釈液を大脳内に注射すると、APPトランスジェニックマウスに、時間と濃度に依存した大脳内のβ-アミロイドーシスとそれに伴う病変を誘発した。脳抽出物のシーディング活性は、Aβ免疫除去、タンパク変性、またはAβを宿主に免疫することによって、低下または消失した。外因性に誘発させたアミロイドーシスの表現型は、宿主と誘導物質の両者に依存した。	
70059	2007/06/15	70257	インフルエンザ	Science 2007; 315: 655-659	1918インフルエンザウイルスのヘマグルチニン受容体結合部位のごくわずかな変化により、ウイルスの伝播性が変化することが示された。2つのアミノ酸変異によって、ヒトのα-2,6シアル酸からトリのα-2,3シアル酸へと転換すると、フェレット間で呼吸器飛沫による感染を起こさないウイルスとなった。さらに、α-2,6およびα-2,3双方に特異性のある1918ウイルスは感染性が低かった。ヘマグルチニン受容体特異性が、哺乳類におけるインフルエンザ伝播に本質的な役割を果たす。	
70059	2007/06/15	70257	ウイルス感染	Canadian Blood Services 2006年12月18日	2006年12月18日付で、カナダ血液サービスは供血者が供血前に記入する供血記録の問診事項に一部修正を加える。カナダ保健局の指示により、ヒト以外の霊長類(サル、ヒヒ、チンパンジー、アカゲザル、あるいはその血液や唾液)との職業的接触に関する質問を追加した。サル泡沫状ウイルス(SFV)に関する認可された標準検査法がないため、供血者がこの質問に「はい」と答えた場合は無期限に供血延期となる。研究所で霊長類を扱う人、獣医師、動物園職員などが延期対象となるだろう。	
70064	2007/06/22	70281	ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	ヒトボカウイルス感染の疫学的プロフィールおよび臨床的特徴を調べるため、2歳未満の小児のヒトボカウイルスを調査した。直接的免疫蛍光試験でRSV(respiratory syncytial virus)、パラインフルエンザウイルス(1-3型)、インフルエンザAおよびB、並びにアデノウイルスが陰性であった425名中22名(5.2%)がPCRでヒトボカウイルス陽性であり、無症候であった96名では陽性者はゼロであった。この試験期間中、2つの異なる遺伝型が見られた。	
70059	2007/06/15	70257	ウイルス感染	ProMED-mail20061223.3593	日本でノロウイルスによる感染性胃腸炎が増加している。この疾患は従来食中毒とされてきたが、昨年の症例のうち生の貝類摂食に関連したものは15%しかなく、患者の吐瀉物や排泄物から、あるいはウイルスが手を介して食物や食器に付着することで間接的に感染することが多い。今シーズンのノロウイルス流行は主にヒト-ヒト感染によるものであり、変異による新たなウイルス株の流行と考えられる。2006年11月27日から12月3日までの間に、全国の約3000の医療機関から65,638人の感染患者が報告された。	
70059	2007/06/15	70257	ウイルス感染	ProMED-mail20070106.0058	2006年12月23日、ケニアGarissaの公立病院に入院した患者複数の症例から、リフトバレー熱のヒトでのアウトブレイクが初めて確認された。IgM及びPCRにより確定診断された。同地区での発病率は、19/10万人で、最高値は最初に患者が見つかったShanta Abalの129/10万人である。2007年1月5日現在で188例に達し、うち68例が死亡した。2007年1月4日、ケニヤ北東部のIjara地区でリフトバレー熱の新規疑い例8例が発見された。	
70059	2007/06/15	70257	ウイルス感染	ProMED-mail20070216.0586	西オーストラリア保健当局は、東Kimberleyと東Pilbara地区で蚊が媒介するウイルスの証拠が見つかったとして、西オーストラリア北部に居住あるいは滞在中の人々に、蚊に注意するよう呼びかけた。西オーストラリア大学が実施するサーベイランスプログラムによって、今年の雨期に初めてクンジンウイルスが確認された。クンジンウイルスは、蚊によって媒介されるウイルスで、マレーバレー脳炎(MVE)ウイルスと同じグループに属する。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70059	2007/06/15	70257	ウイルス感染	ProMED-mail20070216.0596	ペルーの地方保健局長官は、Cuzco県La Convencion郡で黄熱による死亡例3例が発生したと報告した。Cuzcoの保健当局によると、このうち1例はMatoriato地区で発生したとのことである。当局は、La Convencion郡に向かう人全員を対象とした黄熱のワクチン接種キャンペーンを含む危機管理計画の策定を決定した。	
70067	2007/07/10	70314	ウイルス感染	ProMED-mail20070423.1325	オーストラリアのVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡したが、未知のウイルスが原因であった。このウイルスはリンパ性脈絡髄膜炎ウイルスと近縁であったが、既存のスクリーニング法では検出されなかった。454 Life Sciencesによって確立された迅速シークエンシング技術とGreene Laboratoryによって開発されたバイオインフォマティクスアルゴリズムによって発見された。	13
70075	2007/07/26	70336	ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 162-170	輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。感染ザルの血液を非感染ザルに輸血したところ、輸血されたサルの血液から8週後にプロウイルスDNAが検出され、その1週間後にセロコンバージョンが起こった。血しょう中に検出限界下限のSFVが検出された。また感染29週目に唾液中にSFVが検出された。輸血によりSFVが感染することが初めて示された。	
70059	2007/06/15	70257	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のMP-NATの結果は陰性)由来の血液製品を投与された後、西ナイル神経侵襲性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実施されておらず、ID-NATトリガーを促進することが重要である。	
70059	2007/06/15	70257	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20061214.3510	2006年、米国におけるウエストナイルウイルス感染のヒト症例は43州から4052例が報告され、うち1396例で脳炎や髄膜炎を発症、死亡例は146例だった。また、ウマ、トリ、蚊からのウイルス検出が報告されている。	
70059	2007/06/15	70257	ウエストナイルウイルス	Transfusion 2006; 46: 2036-2037	ウエストナイルウイルス(WNV)が輸血感染するとの認識により、米国とカナダではウイルスRNAに関する供血者の検査が迅速に導入された。最近の分析ではこの検査は費用対効果が低いと指摘されている。Custerらは、ミニプール検査と一部個別検査を組み合わせた通年の検査は、費用対効果は低いが血液安全のためには最善の選択であるとしている。一方Korvesらは、検査の削減を提唱している。検査の効率性を問う必要はあるが、WNVスクリーニングを行う他の方法がないかを検討することも重要である。	
70069	2007/07/18	70317	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県の船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫疽菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫疽菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫疽」を発症させる。同センターは、「気腫疽菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べることが今後の課題」としている。	
70082	2007/07/27	70350	クロストリジウム感染	イザ(産経新聞) 2007年2月23日	千葉県の船橋市立医療センターは22日、2006年2月に搬送され、死亡した同県内の50歳代の男性から気腫疽菌が検出されたと2007年2月22日に発表した。人への感染が報告されたのは初めてである。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70059	2007/06/15	70257	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 147-149	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。	14
70059	2007/06/15	70257	チクングニヤウイルス感染	毎日新聞 2007年1月24日	1月24日、厚生労働省はスリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。女性は2006年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。厚労省によると、チクングニヤ熱は発熱や関節炎、発疹などが特徴で、死亡率は極めて低い。蚊を介して感染し、人から人への感染はない。	
70059	2007/06/15	70257	トリパノソーマ症	AABB Weekly Report 2006; 12(43): 1-2	FDAがシャーガス病の供血者スクリーニング検査試薬を初めて認可したのを受け、米国血液銀行協会(AABB)は、採血施設が検査導入とその期間を決定し、供血者と受血者のフォローアップのためのガイダンスを提供するのに役立つよう、協会公報#06-08を12月14日に発表した。具体的な勧告内容は、出荷停止、遡及調査、自己血輸血で繰り返し検査陽性となった場合の成分製剤出荷の認可、供血延期措置、通知、確認試験、供血者の医学的評価のための供血延期などの事項が盛り込まれている。	
70069	2007/07/18	70317	トリパノソーマ症	FDA News P06-198 2006年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシャガス病を引き起こす血液寄生虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査では初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。	
70059	2007/06/15	70257	トリパノソーマ症	Reuters AlertNet 2007年4月13日	WHOによると、感染の数十年後に死亡する可能性もある寄生虫症、シャーガス病が、不適切な血液スクリーニングが原因でラテンアメリカから米国やヨーロッパに拡大している。WHOはバイエル社の支援を受けて、今や「地球規模の問題」となったシャーガス病根絶のための事業を拡大している。シャーガス病に感染している人は900万人にのぼると見られ、その多くはラテンアメリカの農村部の子どもである。最近では大規模な移民の影響で米国、スペインや他の欧州諸国に広がっている。	15
70059	2007/06/15	70257	トリパノソーマ症	Transfusion 2007; 47: 540-544	神経芽細胞腫(ステージ4)を発症した3歳半の女児が複数の血液成分製剤投与を受けた後、Trypanosoma cruziによるシャーガス病と診断された。輸血された製剤の全供血者の血液を再検査したところ、初回供血者1名がT. cruzi抗体陽性であることが判明した。当該供血者は、ボリビア出身であり、17年前に米国に移住した。移住後は母国に帰国していない。本症例は、米国・カナダでの輸血によるシャーガス病感染の7例目の報告である。シャーガス病スクリーニング検査が必要であることを示している。	
70069	2007/07/18	70317	パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 883-889	1993-1998年及び2001-2004年の間に製造された6つの第Ⅷ因子濃縮剤の284ロットについて、in-house NAT法によりパルボウイルスB19 DNAを測定し、抗B19 IgGも併せて測定した。その結果、B19 NAT非スクリーニング血漿から調製した製剤のB19 DNAの陽性率及びレベルは高かったが、製造方法が異なると、製品間で様々であった。血漿のB19 NATスクリーニングは、最終製品中のB19 DNAレベルを下げ、大半の例で検出限界以下とさせ、B19伝播のリスクを減少させた可能性がある。	16

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70069	2007/07/18	70317	ヒトポリオーマウイルス感染	J Virol 2007; 81: 4130-4136	ヒトの気道からの検体をウイルススクリーニングし、KIポリオーマウイルスと暫定的に名付けた未知のポリオーマウイルスを同定した。このウイルスは、遺伝子のearly領域では、他の霊長類のポリオーマウイルスに系統遺伝学的に近縁であるが、late領域では、既知のポリオーマウイルスに対して相同性が少ない(アミノ酸同一性30%未満)。このウイルスは、PCRによって、鼻咽頭吸引物637例中6例(1%)と便検体192例中1例(0.5%)で検出されたが、尿及び血液検体では検出されなかった。	17
70069	2007/07/18	70317	ヒトポリオーマウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 595-604	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に存在する新規のポリオーマウイルスを同定し、WUウイルスと名付けた。WUウイルス遺伝子は5229bpで、Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統遺伝学的分析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオーマウイルスとは異なっていることが明白となった。オーストラリア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例からWUウイルスが検出され、地理的に広く分布していることが示唆された。	18
70059	2007/06/15	70257	マラリア	Eurosurveillance 2006年11月16日	2006年8月にコルシカ島で三日熱マラリア1症例が診断された。フランス南東部出身の59歳男性で、2006年夏に南コルシカのポルトに滞在していた。患者はマラリア流行地域への渡航歴はなかった。マダガスカルに渡航歴のある三日熱マラリア患者が7月初めに同地区に滞在しており、コルシカのハマダラカによってP. vivaxの国内伝播が起こったことを示唆している。 本症例は、この地域で報告されたマラリアの地域内伝播の1972年以来初の症例である。	
70059	2007/06/15	70257	マラリア	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1): 070111	輸入感染症サーベイランスに関するヨーロッパネットワークへの報告数によると、2006年11月下旬以降、インド、ゴア州への渡航者において、熱帯熱マラリア患者が増加している。1月10日までに、ドイツで2例、デンマークで4例、スエーデンで2例、計8例の患者が報告された。	
70078	2007/07/27	70346	マラリア	ProMED-mail20070501.1414	ジャマイカ保健省によると、2007年4月の1ヶ月間に新規のマラリア症例11例が報告された。内2例は、メスのハマダラカが媒介する熱帯熱マラリア原虫によるものであった。また、2006年12月に最初の症例が報告されて以降、輸入感染症例が7例あった。2007年4月1～21日の間に実施された884検体の検査の結果、血液検体陽性率は0.7～1.8%で減少を続けている。最近、Anopheles albimanus蚊がマラチオン殺虫剤に耐性を示し始めたことが確認されたため、感染拡大を防ぐために代わりの殺虫剤を探している。	19
70069	2007/07/18	70317	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。	
70059	2007/06/15	70257	感染	Blood 2006: 108: Abstract #4144	0.2mM S-303 (アクリジン化合物) および20mM グルタチオン(GSH)を用いた改良S-303処理法を用い、RBC中の細菌およびウイルス不活化の有効性を評価した。輸血に関連するグラム陽性菌およびグラム陰性菌、Vesicular stomatisウイルス、Adenovirus 5、HIVおよびウシウイルス性下痢ウイルス(HCVのモデル)のいずれも改良S-303処理により効果的に不活化された。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70059	2007/06/15	70257	狂犬病	ProMED-mail20061118.3303	2006年11月17日、京都府の保健所は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症して死亡したと発表した。厚労省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。厚労省によると、男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。	
70069	2007/07/18	70317	結核	NIKKEI NET いきいき健康 2006年12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関(WHO)が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。	
70059	2007/06/15	70257	細菌感染	ABC Newsletter 2007年4月13日 21ページ	2004年度から2006年度にかけて米国食品医薬品局(FDA)に報告された輸血関連副作用による死亡症例数である。3年間の合計は219例で、内訳はTRALI86例(39.3%)、その他の副作用(ABO不適合以外の溶血反応、輸血関連心過負荷、細菌感染、アナフィラキシーなど)67例(30.6%)、細菌感染20例(9.1%)、ABO不適合による溶血反応15例(6.8%)、輸血が原因である可能性が否定できない症例31例(14.2%)となっている。	20
70078	2007/07/27	70346	細菌感染	American Society for Microbiology 107th Annual Meeting: L-004 2007年5月21－25日	日本の三次医療施設である自治医科大学病院(病床数1082床)において、2006年4月1日～8月31日に、患者28名の血液培養からBacillus cereusが検出された。リネン類の汚染と末梢静脈ラインの不適切な取り扱いが原因であると考えられた。一時的にリネン類のオートクレーブ処理を行い、洗濯機を洗浄し、末梢静脈ライン管理について職員の教育を行ったことで、B. cereus陽性血液培養はその後検出されなかった。	21
70078	2007/07/27	70346	細菌感染	Clin Infect Dis 2007: 44: 1408-1414	2005年3月、米国ネブラスカ州の病院で複数の病室において、無針静注カテーテルコネクターバルブが導入された時期に血流感染の急激な増加が見られた。一次血流感染について調査を行ったところ、一次血流感染と無針静注カテーテルコネクターバルブの使用との間に有意な関連性が認められた。細菌培養を行った37個のバルブのうち24.3%から微生物が検出され、主にコアグラーゼ陰性ブドウ球菌であった。無針コネクターバルブの評価には市場導入前に感染リスクの査定を含めるべきである。	22
70059	2007/06/15	70257	鳥インフルエンザ	Eurosurveillance 2006: 11(12): 061221	2006年11月29日時点でH5N1型トリインフルエンザウイルス感染患者258名がWHOに報告され、50カ国以上で鳥類での感染が確認されており、うち10カ国では鳥類がヒト患者発生の感染源となっている。EUでは、同ウイルスは家禽には感染定着しておらず、2006年春季に少なくとも15カ国で野鳥の感染が確認されたが、ヒト感染症例は発生していない。家禽の感染予防が成功し、感染は5件のみで迅速に制圧された。散発例の報告が続いていることから、生物学的安全確保対策と早期警報システムを堅持する必要がある。	
70059	2007/06/15	70257	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061201.3394	WHOは、H5N1鳥インフルエンザウイルスにより光を当て、パンデミック株への変異の検出を容易にするために、H5N1鳥インフルエンザのヒト症例調査のためのガイドラインを発表した。14ページのガイドラインは、患者の問診、周辺で他の症例を捜索することによる接触歴の調査、ヒト－ヒト感染の何らかの徴候を発見するためのデータのふるいわけなど、各症例の徹底的な調査を求めている。ガイドラインでは、臨床検査の結果が出る前に疑い症例の調査を行うことを要請している。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献
70059	2007/06/15	70257	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070120.0260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口孵卵場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。	
70059	2007/06/15	70257	鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンの低温殺菌、静注用免疫グロブリン(IVIG)のSD処理、第VIII因子インヒビターバイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びIVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルス不活化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンベロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルス不活化処理によって効果的に不活化された。	
70070	2007/07/24	70324	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なった調整液にヒトパルボウイルスB19を加え、60℃で10時間処理した。異なった溶液中のB19は加熱中異なった熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なった調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なった。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。	
70059	2007/06/15	70257	梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年は100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。	
70059	2007/06/15	70257	麻疹	asahi.com 2007年4月18日	東京都や埼玉県など関東地方ではしかが流行していることが、国立感染症研究所感染症情報センターがまとめた定点調査でわかった。例年より流行は早く、人の移動が活発になる連休に向けてさらに広がることが予想されるとして、同センターは緊急情報を出して注意を呼びかけている。同センターによると、例年、はしかの発症は乳幼児に多いが、今年の流行は10代前半や大人に多いのが特徴という。	23